

千代田区基本構想懇談会
からの提言書
(たたき台)

令和4年11月

千代田区基本構想懇談会

目次

1. はじめに	1
2. 懇談会の概要	2
(1) 開催目的.....	2
(2) 懇談会構成員.....	2
(3) 開催日時・各会の主なテーマ.....	4
3. 提言内容	5
(1) 基本構想についての提言.....	5
① 「はじめに」・「区と基本構想の役割」について.....	5
② 「めざすべき将来像」について.....	6
③ 「分野別の将来像」について.....	7
④ 「基本構想の実現に向けて」について.....	9
⑤ 基本構想全体に関わる意見.....	9
(参考) 基本構想に対する懇談会構成員からの主な意見.....	10
① 「はじめに」・「区と基本構想の役割」について.....	10
② 「めざすべき将来像」について.....	10
③ 「分野別の将来像」について.....	12
④ 「基本構想の実現に向けて」について.....	15
⑤ 基本構想全体に関わる意見.....	15
(2) その他区の実践に対する意見.....	17
① 教育関連.....	17
② 文化関連.....	18
③ 福祉関連.....	19
④ 保健関連.....	20
⑤ 暮らし関連.....	20
⑥ まちづくり関連.....	22
⑦ 全般・その他.....	23
4. 参考	24
(1) 議事要旨.....	24
(2) 団体関係者ヒアリング意見.....	24
(3) アンケート結果.....	24

1. はじめに

千代田区の新たな基本構想の策定に向けた検討にあたり、区民から多様な意見を募るため、千代田区基本構想懇談会（以下「懇談会」という。）が設置されました。

令和3年度に、無作為抽出の在住区民4,000名を対象に「区の施策や将来像に関するアンケート」が実施されました。懇談会の構成員は、その回答者で、懇談会への参加を希望した区民の中から、千代田区の年齢や男女比を考慮して無作為に選ばれた18名と学識経験者4名で構成されました。

懇談会は、令和4年7月から11月にかけて、全体会と分野別の部会を（計6回）開催し、（仮称）第4次基本構想のたたき台等について協議を重ねてきました。

全体会では、現総合計画の振り返りや、各部会の意見を踏まえて将来像について検討し、意見の取りまとめを行いました。また、部会では、各分野の視点から将来像やめざすべき姿について協議し、様々な意見が活発に交わされました。

千代田区がこれからも発展し、区に関わるすべての人にとって誇れる素晴らしいまちとなるよう、ここに提言書としてまとめましたので、提出します。

新たな基本構想の策定にあたっては、今回の提言の内容について真摯に受け止めていただき、基本構想の策定や今後の区政運営の参考にしていただくことを期待します。

令和4年11月
千代田区基本構想懇談会 構成員一同

2. 懇談会の概要

(1) 開催目的

本懇談会は千代田区の基本構想の策定に向けた検討に当たり、区民から多様な意見を募るため設置、開催されたものである。

なお、本懇談会は学識経験者4名、区民18名の合計22名（内区民1名途中辞退）で構成され、さらに、「教育と文化」、「くらしとまちづくり」、「福祉と保健」の3分野に分けた部会を設置し、各分野の視点から協議を行った。

(2) 懇談会構成員

	氏名（敬称略）	所属	担当部会		
			教育と文化	福祉と保健	くらしとまちづくり
学識経験者	牛山 久仁彦 【会長】	明治大学 政治経済学部教授			
	藤井 千恵子 【副会長】	元国土舘大学 体育学部教授／ 元千代田区教育 委員会指導主事	◎		
	石山 麗子	国際医療福祉大学 大学院教授		◎	
	杉崎 和久	法政大学 法学部教授			◎
区民 （五十音順）	秋元 純	区民	○		
	石井 輝光	区民			○
	奥田 聖	区民			○
	賈 松年	区民	○		
	坂田 みほ子	区民		○	
	佐藤 陽一	区民			○
	清水 誠	区民			○
	杉野 順清	区民	○		
	鈴木 寿明	区民		○	
	竹田 靖子	区民	○		
	田中 晶子	区民	○		
玉川 優子	区民	○			

	都野 織恵	区民		○	
	都丸 雄一郎	区民		○	
	中谷 太一	区民		○	
	難波 千鶴	区民		○	
	根本 安曇	区民			○

◎=部会長 ※途中辞退者は無記名

(3) 開催日時・各会の主なテーマ

令和4年度に以下のとおり、懇談会を実施した。

回	開催日時	主な内容
第1回全体会	7月25日 18:00-20:30	<ul style="list-style-type: none"> ●区の現況説明 ●新たな基本構想策定について概要説明
第1回部会 (教育と文化)	7月28日 18:00-20:30	<ul style="list-style-type: none"> ●千代田区の良いところ・好きなところについて意見交換 ●めざすべき将来像・分野別の将来像について意見交換 ●現行計画における施策の振り返り
第1回部会 (くらしとまちづくり)		
第1回部会 (福祉と保健)		
第2回全体会	8月29日 18:00-20:30	<ul style="list-style-type: none"> ●団体関係者ヒアリング、職員アンケート等結果の報告 ●めざすべき将来像・分野別の将来像等について協議
第2回部会 (教育と文化)	9月2日 18:00-20:00	<ul style="list-style-type: none"> ●属性別アンケート等結果の報告 ●めざすべき姿について意見交換
第2回部会 (くらしとまちづくり)		
第2回部会 (福祉と保健)		
第3回全体会	10月6日 18:00-20:30	●提言書の作成
第4回全体会	調整中	調整中

3. 提言内容

(1) 基本構想についての提言

懇談会では、事務局において作成された「(仮称)第4次基本構想(たたき台)」の内容について、意見交換を行ってきた。その内容を踏まえ、「(仮称)第4次基本構想(たたき台)」の構成要素ごとに以下の①～⑤のとおり提言をする。

①「はじめに」・「区と基本構想の役割」について

「はじめに」の部分については、本基本構想を手にとってくれた人の関心を引き付ける重要な部分である。文量を工夫するなど、できる限り、読み手にとって読みやすく理解しやすい内容となるようにされたい。

また、新型コロナウイルス感染症拡大について触れているが、それ以外にも、多様性の尊重やジェンダー平等、国際化の進展、社会全体のデジタル化の推進などの社会情勢の変化に触れたうえで、区民を始めとする千代田区に関わるすべての人のための基本構想であることを明確にされたい。

「区と基本構想の役割」の部分については、行政機関と区民の距離が近いことは1つの長所であると考えます。今後、千代田区は人口の増加が見込まれているが、引き続き区役所が、区民を始めとする千代田区に関わるすべて人にとって、身近で頼れる存在であり続けていただきたい。

②「めざすべき将来像」について

千代田区の現状認識としては、日本をリードし発展し続けている区民が誇れるまちであるため、今も躍進し続けていることが伝わるようにされたい。また、千代田区らしさを表現するなど千代田区の将来像であることをより明確にされたい。

「伝統とモダン」という表現について、区の説明では、新しい文化や新しく住まう人、近未来の景色などの思いが込められているとのことであった。その思い自体は理解するものであるが、特に「モダン」という表現はわかりにくく、その意図が正しく読み取りにくい。別の表現に改めることも含め、再検討いただきたい。

また、千代田区の特徴や課題を考慮し以下の4点について留意して「めざすべき将来像」について検討されたい。

1つ目は、伝統や歴史、文化についてである。これまで守ってきたものを引き続き大切にしていけるとともに、新しい文化や価値観との調和や融合が図られたまちを目指していただきたい。

2つ目は、多様性についてである。千代田区は、人々の個性、まちの個性であふれた特徴的なまちである。めざすべき将来像にはこうした個性の多様さが尊重され、まちの発展や魅力につなげていくことを示していただきたい。

3つ目は、「つながり」についてである。千代田区は地域のつながりを大事にしてきたという特徴があるが、今後は地域だけでなく、区で働き、学び、集う人、あるいは企業などをつながり築くことで、より発展していけるものとする。めざすべき将来像には、このような「つながり」の重要性を想起させることばを取り入れていただきたい。

4つ目は、「定住」についてである。懇談会の議論を経て、様々な千代田区の良いところや魅力を再認識した。この魅力的な千代田区に住みたい人が住み続けられるまち、持続可能なまちになることをめざすべき将来像の中に取り入れていただきたい。

③「分野別の将来像」について

(自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち)

子育てについては、ライフスタイルのみならずライフステージにも考慮した将来像を掲げていただきたい。生み育てたいと願う人が増え、充実した子育てが実現できるような将来像を掲げていただきたい。そして、子どもの成長には、個性を育み、意思を尊重していくことも重要であると考え、その要素を取り入れていただきたい。

また、こちらの分野別の将来像には社会包摂の考えをより反映するべきと考える。年齢だけではなく、性別、障害の有無、国籍など誰一人取り残されることなく、安心して希望をもてる将来像を掲げていただきたい。

健康面については、様々な観点から考える必要がある。昨今メンタルヘルスが注目を浴びている社会的背景を考慮し、体だけの健康だけでなく精神面の健康についても向上されることが分かるような将来像としていただきたい。

最後に、千代田区は伝統や歴史があるまちなので、それらを守り、後世に受け継いでいっていただきたい。区に関わる人達が区の伝統や歴史を学び知ること、皆が心豊かに成長することを期待する。

(集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち)

千代田区で生まれ育った人だけでなく、新たに千代田区に転入してきた人についても、古くから住んでいる住民とのつながりなど地域との関係を築くことが重要であると考え。特に、単身世帯や子どもを持たない世帯は地域とのつながりを築くきっかけが少ない。千代田区に関わるすべての人が、互いにつながるきっかけを得られるようにすることで、支え合うことができるまちを将来像として掲げていただきたい。

千代田区は大企業が集積し、日本の経済をけん引してきた。また、多くの大学や学校があり、若く活気にあふれている。千代田区を支え、賑わいを創出している様々な企業や商店、働く人や通学する学生を大切に、千代田区の地域特性を活かした将来像を取り入れていただきたい。

(やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち)

千代田区は皇居を中心に自然にあふれているが、地域によっては緑が少なく区民が自然に触れ合う機会が少なくなっている。自然は人々にやすらぎを与える重要な要素であり、自然があることで住民も千代田区に対し愛着や誇りを感じるものである。都心でありながらも、公園の整備などを通じて身近に自然と触れ合うことができるまちづくりを推進する意思を将来像に込めていただきたい。

また、これからのまちづくりにあたっては、人々から愛されるまち並みを大切にするとともに、千代田区に関わる人々の生活を便利していくという思いを将来像に取り入れていただきたい。

最後に、災害については、近年台風や集中豪雨といった激甚化する自然災害や今後懸念される大規模地震など注目を集めているところである。昼間人口やビルの多さといった千代田区の個別事情に留意しながら、ハード面の整備や持続可能な社会を実現していくことを期待する。

④ 「基本構想の実現に向けて」について

ここでは、区民参画について触れられているが、区民の多種多様な意見を調和・調整する機能が区には求められている。その点を踏まえながら区政を運営いただきたい。

また、人権や平和を守る取組みについては、「はじめに」でも述べられている「国際平和都市千代田区宣言」を十分に踏まえた上で進めていかれたい。

⑤ 基本構想全体に関わる意見

本基本構想の特徴として期限が設定されていないことが挙げられる。めまぐるしく社会情勢が変わる現代において、あえて期限を設定しないことで、社会に大きな変化が生じた際に柔軟に取組みの見直しを図ることができることであった。一方で、期限がないことで将来像がどの程度未来を見据えているのかが分かりにくく、また、永久に変わらないということに不安感もある。このように期限の設定については一長一短あるため、もう一度その必要性について慎重に検討されたい。

最後に、本基本構想が千代田区に関わるすべての人と共有するものだとすることを鑑み、正確な記述に努め、多くの人から理解されやすい用語を使用するよう留意されたい。また、読み手に理解しやすいよう構成や文面、デザインなどを工夫し、みんなから親しまれる基本構想としていただきたい。

(参考) 基本構想に対する懇談会構成員からの主な意見

① 「はじめに」・「区と基本構想の役割」について

- 「はじめに」が長すぎる。「私たちは～」以降の2段落だけでよいのではないか。
- 「子ども、女性、高齢者、障害者など」とあるが、ジェンダーマイノリティや外国人についても触れてほしい。
- 20年前と現在の大きな違いは、「多様性」、「国際化」、「IT化」であり、その3点が内包されていると良いのではないか。
- 「はじめに」の「区民の命や健康を守る」については、区民ではなくとも区内で活動する人も含まれるようにするべきである。
- ジェンダーの観点が抜けているように感じる。団体関係者ヒアリングでの意見でも、「ジェンダーという言葉が出てこないことにも違和感を覚える」とある。
- 行政がより関与していくような表現が入ると、「行政が身近なまち」という千代田区のイメージをもっと上げることができるのではないか。
- 住民と行政とのつながりを示す構想にしてほしい。

② 「めざすべき将来像」について

- 説明文がなければ「千代田」だと分からない。
- 千代田区は大企業が集積し、歴史もあるなど理想的な都市である。「日本を牽引していく」「日本のモデルケースをめざす」「N01、模範的である」という思いを描いてはどうか。
- 千代田区は既に躍進しているので「躍進し続ける」とした方が、希望があって良い。
- 写真や絵で千代田区らしさを表現すると良いのではないか。町会の様子を写真で紹介すると、「こうしたら地域を活性化できる」というイメージにつながるのではないか。
- 自治体のトップランナーとして現状に満足するのもいいが、トップランナーを維持するには努力が必要だと思う。10年後、20年後もトップランナーを維持するための取り組みなどを議論し、表現するべきではないか。
- トップランナーという言葉は、とても良い言葉であり、反映されていないのは良くない。トップランナーとして千代田区がどうあるべきかをアピールしても良いと思う。教育分野などにおいては、現在も特色のある取り組みをして

いるが、全国ナンバーワンとして挑戦的・実験的・先端的な取組みを更に進めてもいいのではないか。

- 他の市町村と比べ、ある意味ゴールに近いのは千代田区であり、「もう少しでそのゴールに手が届く、理想ではなく実現できる。」ということ表現したい。
- モデルケースになれるような区を目指すという視点を区には持ってほしく、そのような内容を「はじめに」の中に入れてもいいのではないか。
- 人によって「守るべき伝統」で思い浮かぶものが異なるので、認識をすり合わせて具体化することで、その先の将来の姿もよりイメージしやすくなると思う。
- 具体的なイメージが湧かない。
- モダンという表現はわかりにくい。
- 「モダン」は「現代」という意味で使用していると思われるが、歴史の区分としては、現代は、「ポストモダン」と呼ばれることもあるため、分かりづらく、別の表現に変えた方が良く思う。
- なぜ「モダン」だけ、日本語ではなく外来語を使用しているのか。日本語で言い換えられると良い。また、「未来」のニュアンスを入れられると良い。また、溶け合うのではなく、それぞれの良いところを取り入れるイメージの方が良いのではないか。
- 「伝統とモダンがとけ合う」という表現は気に入っている。「伝統とモダンが調和する」という表現にするのも良い。
- 「伝統とビジネス」という表現を使うと差別化でき、千代田区らしい表現になると思う。
- 一方で、ビジネスというよりは、条例にもあるとおり、文化や教育についての印象も強い。
- 皇居の存在で江戸時代の伝統のイメージはあるが、上野エリアと比較すると弱い。もっと歴史や伝統を強調してほしい。
- 江戸時代から蓄積してきた文化などは、千代田区特有の魅力である。そういった魅力は明確に強みとして記載した方が良い。
- 常に新しいものが生み出され、それが伝統として受け継がれてきた場所という認識があっても良い。
- 伝統というと保守的なイメージが強い。伝統に加えてこれからの世代と何かを作り上げていく旨の記載がほしい。
- 京都を見習って歴史と現代感の融合をめざす。
- 「働き、学び、集う」とあるが、千代田区は国籍・性別・障害など多様性にあふれていると思う。もっと具体的に記載したほうが良いのではないか。

- 質の高い様々なまちの要素が既に備わっている。将来に向けての魅力を既にある魅力からもっと引き出せると良い。
- 地域のつながりや人間味があることを守りながら、発展して行ってほしい。
- 学生や新社会人と交流など世代間交流ができる場所があると良い。
- 昼間人口と夜間人口の人口差が大きいので、そのつながりがあると良い。
- 安全安心に生活できるなど、長期的に住み続けられるという持続可能性についても触れた方が良いのではないか。

③「分野別の将来像」について

(自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち)

- 「ライフスタイル」ではなく「ライフステージ」、「安心」ではなく「充実」に変更して、「ライフステージに応じて充実した子育て」に変更すべきではないか。
- 共働きやシングルの方もいるので、それを踏まえた表現が良いと思う。「ライフスタイル」は残し、「ライフスタイル・ライフステージ」に変更するのはいかがでしょうか。
- 構想で記載されている「多様なライフスタイル」とは、親に関する多様性なのか、子どもに関する多様性なのかが分かりにくいため、表現をもう少し工夫した方が良いと思う。
- 「生み育つ」、「生まれ育つ」といった要素がこの構想では見受けられない。今後、千代田区として、転入で人口を増やしていくのか、それとも、千代田区で産まれる子どもを増やし、人口を増やしていくのか、区のスタンスを示した方が良いのではないか。
- 「意思」とは具体的に何を指すのかわからない。個性や意思は勝手に育つわけではないため、個性や意思を「育む・育てる」や「考える力を伸ばす」という表現に変えた方が良いと考える。
- 「平等」という言葉が大事なポイントになる。一人ひとりの子どもに合った個性や意思を尊重できる機会を与えられることが必要である。
- 「こどもからお年寄りまで」という表現があるが、年齢だけでなく、人種や性別などの観点からも多様性を表現できると良い。
- 「子どもからお年寄り」という表現は限定的で多様性を感じない。ダイバーシティーアンドインクルージョンの考え方に沿い、多様な存在を認めるというニュアンスを追加できると良い。
- 将来像を掲げるにあたっては、「自分らしく」という言葉はキーフレーズになっていると思う。

- 支え合うといったイメージもあるため、「誰が誰から取り残されることなく、支え合っていく」のか、もう少し具体的に書くと良いと思う。
- 物理的に孤独感を感じるケースと、時間軸の中で孤独感を感じるケースがあると思う。普段困っていないような人であっても、取り残されたように感じる瞬間はある。そのような場合に、公的サービスだけではなく、相談できる相手があり、支え合えるような状況があることは、理想である。
- マイノリティの立場にない人にとっては、「取り残される」という意味が伝わりにくく、「めざすべき姿」がイメージしにくいと思う。構想の中で、取り残されている人たちを明示することで、取り残されているマイノリティが社会にいることを気付かせることが大事だと思う。最終的に平等な社会を目指すためには、まずはマイノリティの「特別扱い」をするような段階を踏む必要があると思う。
- 同じ社会にいる全員に平等な機会を公正に提供するには、それぞれの立場に応じた配慮が必要である。
- 孤独を感じている人はおり、そのような人たちにとっては、「誰一人取り残されることがなく」という表現は響く。
- SDGsから引用された言葉なのではないか。「誰一人取り残されることがなく」という言葉を、千代田区として噛み砕いて使用し、障がい者に対する意識が高まっていけば、ありがたい。
- 「誰一人取り残されることがなく」においては、自分が取り残されているという自覚がある人、無い人どちらも内包すると捉えると良いのではないかな。
- 「誰一人取り残されることがなく」で対象となる人でも、後半の「自分らしく、自立した生活を送ることができています」では対象とならない人もいると思うので、前半と後半の対象者を一致させると良いのではないかな。
- 健康とあるが、身体的な健康だけでなく「精神」の健康の要素も盛り込んでほしい。
- 「衛生的」という言葉は少し学問的な印象があるので、例えば「清潔で快適」という表現のほうが分かりやすい。
- 歩いているだけで健康になるようなまちづくり（ウォークブルシティ）という考え方がある。運動に興味のない人でも自然と歩きたく、動きたくなるようなまちづくりも大切だろう。健康づくりは、まちづくりと連動しながら検討することが必要になるだろう。
- 「いきいきと健康に暮らせるまちづくりをする」というような表現にすると良い。
- 国際的な学びの場や文化的な施設といった地域性を活かした内容が盛り込まれると良いかもしれない。

- 「伝統と歴史あるまち」がアンケートでも上位であり、ニーズがあると思うので、もっと重視をし、具体的に基本構想の中に表現しても良いのではないか。
- 区民自身が区内に文化財があることを理解して大事にしていく姿勢を行政に育んでもらえれば、文化財を保護する1つの要因になると思う。文化財を保護し、いかに伝えていくかということの基本構想の中に活かしてほしい。

(集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち)

- 子どもがいることでパパ友やママ友とのつながりがあるが、交流するきっかけがない単身者や子どもがいない夫婦とは付き合いがほとんどない。
- 子ども、子育て以外に地域と繋がれるようなルートがあったら良い。
- 区がフォーマルな交流の場を提供するのではなく、自然体で、興味関心を通じてつながるコミュニケーションの場を増やしていけると良い。
- 新住民も気軽にお祭りなどに参加ができるようなプラットフォームが必要だと考える。また、ボランティアなど出合いのきっかけを行政が積極的に周知し、少しずつ人との繋がりを形成できると良い。また、それは、単発的な取組みではなく、継続的に取り組めると良い。
- 特に抽象的な表現な印象を受ける。人とのつながりが何を指すのかわかるように具体的に表現した方が良い。
- お祭りに参加したいと思っている方が多いように感じた。自分から「支えに行く」といったニュアンスも表現できて良いのではないか。
- 分野別将来像に千代田区らしさを出すためには、ビジネスの要素を打ち出しでも良いのではないか。歴史と文化のあるまちは沢山ある一方で、ビジネスが集積しているのは千代田区が圧倒できる点である。「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」にビジネスの要素を追加しても良いと思う。
- アフターコロナの社会でこそ、人々が集える場所を作ることが重要であり、賑わいを取り戻す必要があると思う。
- 国際的な面も強いことや地域に大学が点在していることも特徴だと思う。大学との連携を構想に入れ込めれば千代田区らしさが出てくると思う。
- 千代田区は小規模な商店や企業への支援があまりないので、自治体を支える小さな商店・起業に対して支援を行う必要があると思う。

(やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち)

- 「やすらぎ」にはいろいろな意味が含まれているようだが、例えば「自然環境」のように、もっとストレートに伝わるような表現にしてはどうか。
- 千代田区には皇居があるため緑が多いという印象を抱くが、神田地区や秋葉原など自然があふれているとは言えない。
- 身近な緑は必要だと思う。
- バランスよく公園を設置してほしい。
- 再開発したエリアは緑が多く配置されていて良い。
- 千代田区の人、再開発よりもまち並みを変えずに残していきたい人が多いと想像していた。
- まちづくりについて、現在の区の方向性は高層化に一本化されており、例えば街路樹に対して区としてのスタンスがないのではないか。
- 子どもに対するアンケートにおいて、「環境に優しいまち」の水準が低かった。これは、子どもがよく利用する公園などの自然環境が豊かではないということの示唆ではないか。良好な環境を次世代に継承する前に、まずは更なる緑化に努める必要があるのではないか。
- 「良好な環境が次世代に継承され」の部分がリード文で読み取れない。
- コミュニティバスやレンタサイクルなど、交通に関しても触れてほしい。
- 移動とバリアフリーなど区民が移動に困らないようにするニュアンスがほしい。

④ 「基本構想の実現に向けて」について

- 自治は区民参画が前提であり、区民の賛成意見・反対意見をうまく調和させることで成り立つものであると考えている。
- 千代田区の理念は、「教育と文化のまち千代田区宣言」と「国際平和都市千代田区宣言」を基本に千代田区の自治を検討すれば良いのではないかと。
- 物理的にも身体的にも平和を保てるような内容にしてほしい。

⑤ 基本構想全体に関わる意見

- 基本構想をどれくらいの期間使うのかが気がかりである。今後長期的に使うものとして、一つ一つの言葉遣いを慎重に検討する必要がある。
- 基本構想に期限はあった方がよく、その期限によって記載内容もかわってくるのではないかと。
- 次の基本構想は期間を設定していないため、文章中に時間的な有限・無限が

混在している。

- 第4次基本構想は無期限を前提に作っているが、中身は20年期限だった第3次基本構想とほぼ変わっていない。アンケートでは10年の後の姿について聞いており、今回の基本構想も10年を期限とするなど、対応が必要ではないか。
- 恒久的な構想として考えるのであれば、時勢の変化に対応できるような内容にするべきである。
- 短いスパンで振り返りの場を設けるのは良いと思う。
- 「千代田区は、約400年にわたり、政治・経済・文化の中心として歴史を刻んできました。」とあるが、千代田区自体は400年前から存在していたわけでないので現実に則した記載にした方が良い。
- 3つの分野別の将来像の粒度感が異なっている。「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」は具体的だが、「自分らしく健やかに暮らし、笑顔で成長しあえるまち」・「集い、つながり、活気とにぎわいのあるまち」は抽象的であるため、3つの分野別将来像の粒度を揃えた方が良いと思う。
- 構想の内容が抽象的で、なにをしていくのかわからない。
- 注視すべき内容、将来こうしたいという内容をはっきりさせた方がよい。
- 「健やか」・「健康」という言葉は、WHOで「身体・精神・社会的にバランスが取れている状態」と定義されている。行政の計画として、そのような言葉の定義とも連動しながら検討を進めた方が良い。
- 「普遍的な幸せ」とあるが、人によって普遍的な幸せは異なるため、記載内容を変更した方が良い。
- めざすべき姿を削除してリード文を充実させる方法や、リード文の抽象度を上げて、めざすべき姿との分けを明確にする方法もあるのではないか。
- 分野別の将来像「やすらぎを感じ、安心して快適に暮らせるまち」について、リード文と比べて、めざすべき姿がより具体的になっているわけでもなく、位置づけが分かりにくい。
- めざすべき将来像にある「伝統」に関する表現が、分野別の将来像においては抜け落ちている。
- 分野別の将来像の3つの区分が分かりにくい。重なり合っている部分も多いように感じる。

(2) その他区の実施に対する意見

ここでは基本構想に掲げる将来像を実現するための施策を推進する上での留意点を、①～⑦のとおり提言する。

① 教育関連

■子育てについて

近年、共働き世帯の増加や近隣住民との関わりの減少など、昔と比べて環境が変化している。こうした社会の変化に対応した施策を展開し、親が安心して子育てでき、子どもすくすくと成長できる環境づくりを推進していただきたい。

懇談会構成員からの意見

- 子育てについて、継続的に安心して暮らせるメソッドなどがあればいいと思う。
- 給付金・児童手当など話題性のある施策を打ち出している。
- 親が共働きで子どもが放置され、ゲームに夢中になりすぎている家庭がある。
- 高校授業料無償化や児童手当などについては、千代田区民は所得制限で対象外となる人が多いと思う。対象外となってしまう人に対しても、都や国の施策とは別に、区の支援があるとありがたい。

■教育について

千代田区の人口増加を考慮しながら、教育環境の充実を図りたい。また、企業や教育機関が集積しているという千代田区の特徴を活かしながら、子どもの個性を伸ばし、意思を尊重した、国際化社会にも対応した教育を実践されたい。

懇談会構成員からの意見

- 一人ひとりの子どもに合った個性や意思を尊重できる機会を与えられることが必要である。
- 子ども達の教育や運動施設等が充実している。
- 海外の小中学校とのつながりなど、国際的なつながりを築く機会を与えるべきではないかと考える。
- 千代田区は企業が多いため、千代田区の企業人、霞が関、教育の場との連

携を強化すると良いのではないかと考える。

- 人口の増加に伴い、公立学校のキャパシティを憂慮している。
- 安い会費で剣道、サッカー、囲碁などのクラブ活動に参加できるが、クラブの先生方へのサポートが不十分だと感じている。
- クラブ活動の先生方への謝礼を検討してほしい。
- 比較的公立の小中学校の質が高い。

② 文化関連

■文化・芸術について

千代田区は古くからの歴史、文化や芸術にあふれたまちである。こうした伝統や芸術をいかに次世代に引き継いでいくかを考える必要がある。そのためには、新たに千代田に転入してきた住民や子ども達が伝統や芸術に触れることができるようにすることが重要であると考えます。

懇談会構成員からの意見

- 美術館やイベントが充実している。
- 本が強みであるなら、行政としてどのように支えていくかは大事な点である。
- 文化財を保護し、いかに伝えていくかということを考えてほしい。
- 千代田区にある大名屋敷、邸宅跡等の名所を広めると良い。
- 日比谷図書文化館には風ぐるまが巡行していない。歴史的な収蔵物がある場所には100円バス等で行けるようにしてほしい。
- 竹橋の東京国立近代美術館は、常設展示は素晴らしいが、企画展は渋い内容が多いので、区が協賛して上野や六本木のように魅力的な展覧会を開催してほしい。
- 神田明神ではアニソン盆踊りを実施しており、日本の伝統と現代文化の融合であるように感じ、そこが千代田区の良さであると感じた。

■生涯学習について

生涯学習は、人々の暮らしを豊かにするとともに、人と人とのつながりを築くきっかけとなる重要なものだと考える。千代田区の教育機関との連携や、生涯学習の機会の充実を図るなど生涯学習の取組みを推進していただきたい。

懇談会構成員からの意見

- 図書館の図書（ビジネス書等）の充実。
- 「千代田区らしさ＝大学がある」ことだと思ふ。千代田区の教育機関を活かして住民の学び直しを促進することは千代田区ならではの取組みであり、「人とのつながり」にも関係する。
- 千代田区は大使館も多くある環境で、外国語学校だけでなく気軽に語学を学べるサークルのようなものがあると良い。
- 教育について、高校や大学は充実している一方で、生涯学習が出来るような環境づくりに努めてほしい。

③ 福祉関連

■福祉について

福祉に関わる課題は高齢者、障害、貧困など様々だが、複雑かつ多様化する家庭環境に起因してヤングケアラーなど家庭内の介護等の担い手といった新たな課題への関心が高まっている。当事者本人だけでなく、その家族などすべての人が健やかで自分らしく生活できるよう、相談体制の充実など必要な支援を、他自治体と連携を図りながら取り組んでいただきたい。

懇談会構成員からの意見

- 風ぐるまの運行本数を増やすことや無料化することで、誰でも風ぐるまを利用できるようにし、区内に一体感がでるようなまちづくりが進められると良い。
- 区指定の健康診断実施機関はアクセスが悪いため、比較的通いやすい台東区にかかりつけ医がいるが、千代田区と台東区で連携ができていない。他区では区の医師会同士で連携が取れているので、千代田区でも他区との連携をしてほしい。
- 無料で定期健診等を受けられるなどサービスが手厚い。
- 訪問看護の際に、特定の訪問看護しか選択できないという制約があるが、医者との相性等もあるので、自由に選択できる仕組みづくりをしてほしい。
- 身元保証人が確保できなくても安心して医療と介護が受けられるような仕組みづくりがあると良い。足立区では社会福祉協議会が身元保証人を代行するサービスがあると聞いている。千代田区でも、サービスの利用条

件等を緩やかにしながら、同様の制度を検討してほしい。身元保証人制度に関して日本は他の先進国に比べ遅れている。

- マイナンバーと保険証の紐づけをすることで、カバーできるところ（入院・治療に関する合意書等）もあるので、その検討も行う必要がある。
- ヤングケアラーについては、自分がヤングケアラーである自覚がない場合や、親の介護をしたくないとも思っていない場合もあるが、自分の時間を確保できないことに悩みを抱えている調査結果が出ている。相談ができる相手がいることが重要だろう。
- 港区では、マンションの空きスペースを活用して、看護ステーションを誘致した民間の事例がある。そのような取組みを行政が民間に紹介をすることや、助成金を支出するなどの支援をしてほしい。そのような取組みは、官民連携や助成金を支出するなどの方策が取れるだろう。人々の暮らしの中に看護ステーションなどを取り込むことで、気軽に相談ができるようになるだろう。

④ 保健関連

■健康について

心身の健康がともに増進されるような環境づくりに取り組んでいただきたい。まちの衛生環境に配慮し、みんなが清潔で快適に過ごせるように努めるとともに気軽に健康増進を図れるような場所についても留意いただきたい。

懇談会構成員からの意見

- ゴキブリやネズミなどの問題は、区民の不快感につながり、清潔で快適に暮らせることが重要である。
- 公衆トイレが清潔で衛生的であることは重要であり、それは区民の安全・安心につながる。

⑤ くらし関連

■コミュニティについて

千代田区は転入者が多く新たに住み始めた住民が多いが、それ故に人と人とのつながりを築くことが困難になっている。特に、単身者や夫婦のみの世帯などは交流のきっかけが少なく、地域との関係が希薄になりやすい。また、昼間区民と在住区民の差が大きい千代田区にとっては、これらのつながりを築くこ

とも地域の発展のための1つの手段になると考える。千代田区の特徴を活かした交流の場を設けるなどつながりを築くための取り組みを行うことで、地域への愛着や支え合いの精神を育んでいただきたい。

懇談会構成員からの意見

- 地方に比べて千代田区は排他的な風土があると感じる。これは伝統とモダンの融合の観点からも、昔から住んでいる人々と新しく移住してきた人々がうまく交流できるようになるとよい。
- 地域住民と大学との連携をより推進することで、学び集う機会や学生との交流にもつながる。
- 学校などの既存コミュニティを活用して、そのコミュニティに属していない人も楽しめるようなイベントがあると良いのではないか。
- 新住民も気軽にお祭りなどに参加ができるようなプラットフォームが必要だと考える。また、ボランティアなど出会いのきっかけを行政が積極的に周知し、少しずつ人との繋がりを形成できると良い。また、それは、単発的な取り組みではなく、継続的に取り組めると良い。
- 子ども、子育て以外に繋がれるようなルートがあったら良いと思う。
- 子どもや高齢者は行政サービスのニーズが高く、比較的行政の目も行き届きやすいと思うが、単身世帯のニーズもあると思われる。単身世帯の人々が地域の活動に関わることで、結果的に子どもや高齢者に良い影響を及ぼすことができるのではないかと考える。
- 昼間の人口と夜間の人口差が大きいので、その繋がりがあると良いと考える。

■生活環境について

地域の治安が良好であることがまちの魅力を高めることにつながるものと考え。路上喫煙対策や客引き行為の防止等に取り組んでいただき、誰もが安心して暮らし続けたいと思えるような生活環境づくりに努めていただきたい。

懇談会構成員からの意見

- 暴走族の取り締まりを強化してほしい。
- 小学生の登下校中のパトロールが良い。住宅街など比較的安全なところもパトロールしてほしい。
- 神田地区や秋葉原地区では治安など、あまり改善されていないように思う。

むしろ、秋葉原地区は酷くなっている。

- 東京駅付近など分煙や客引き対策が完成されているところがあるが、一方で、秋葉原駅付近は15年前と比べて危険なまちになっている印象がある。お巡りさんに隠れて路上喫煙しているところを多くみており、そういう人をアプリで通報するなどし、重点的にパトロールするような取り組みをしてほしい。
- 神田地区は、秋葉原地区と同じような状態であり、まだ改善されていない印象である。神田地区の印象が悪くなるようなSNSの発言もあった。
- 千代田区役所付近でも路上喫煙している人をたまに見かける。マンション前など私道で路上喫煙している人はなんとかならないのか。
- 秋葉原地区では先日も風俗が摘発されていた。インターネット上では「秋葉原は新しい風俗街」などと言われており、住んでいる身としては悲しい気持ちになる。

⑥ まちづくり関連

■まちづくりについて

まちの利便性は都心である千代田区の魅力の1つである。快適に過ごすことができることは、まちの活性化の基盤ともなり、今後もバリアフリー化を進める等利便性の向上に取り組んでいただき、誇れるまちであるよう努めていただきたい。

懇談会構成員からの意見

- 特に古くからある銀座線など、地下鉄駅にエレベーターをつけてほしい。
- 利便性が高い。行きたいところに簡単にアクセスできて便利。

■災害対策について

有事に備えて、国や東京都等との連携も図りつつ、千代田区の特性を踏まえた災害対策を講じ、区民等に積極的に周知していただきたい。

懇談会構成員からの意見

- 隅田川の氾濫が起きた場合など、地域がどのようになるのか、あまり周知されていないように思う。
- 有事の際に、国や東京都との連携が強い区になると良いのではないかと。

- 東日本大震災の際に、子どもの迎えに行けず、子どもたちは自分で帰宅した。災害が起きた際の体制や、どのように子どもたちを守っていくのかをマニュアル化し、周知していくべきではないかと考える。

⑦ 全般・その他

■ デジタル技術の活用について

様々な行政分野において IT 化を推進し、千代田区に関わる人が様々な情報を得やすく、便利な生活をおくることができるよう取り組んでいただきたい。

懇談会構成員からの意見

- IT を使える人とそうでない人の情報格差だけでなく、地元によく知られていない人が地元の情報を取得できないという情報格差が起きているため、地域情報の格差を無くしていくような要素があると良いのではないかと。
- 神田祭などの伝統を地域に広げるために IT のような現代的なツールを使うことが、伝統とモダンの融合の良い具体となるのではないかと考えている。

■ その他

懇談会構成員からの意見

- 共生については、隣の区との連携が大切であると感じている。特徴の似ている他区との連携を強化しても良いのではないかと。
- 構想の見直しの際にも、区民から意見をもらえる仕組みを構築できると良い。

4. 参考

(1) 議事要旨

※各会の議事要旨を掲載予定

- ・ 第1回全体会
- ・ 第1回部会（教育と文化）
- ・ 第1回部会（くらしとまちづくり）
- ・ 第1回部会（福祉と保健）
- ・ 第2回全体会
- ・ 第2回部会（教育と文化）
- ・ 第2回部会（くらしとまちづくり）
- ・ 第2回部会（福祉と保健）
- ・ 第3回全体会
- ・ 第4回全体会

(2) 団体関係者ヒアリング意見

※ 団体一覧及び団体関係者ヒアリング結果を掲載予定

(3) アンケート結果